



目次

1. 概要	2
2. まとめ	3
3. テーマ別作戦	4
4. 推進体制（案）	11
参考資料 ワークショップちらし	12
参考資料 アロマ工房「杉乃精」視察結果	15

1. 概要

(1) 目的

川上まちづくり作戦は、川上地区の少子高齢化による人口減少、地域産業の活性化等の課題に対応して、住民が話し合い、実現可能な作戦を自由に意見交換し、次世代に引き継げる将来像をつくり、住民自らがまちづくりを始動する契機とすることを目的としています。

(2) これまでの経緯

川上地区の将来計画は、第1次として「川上地区むらづくり計画書」が平成25年12月に策定され、平成26年から令和5年までの10年間の計画がありますが、その内容には十分な対応ができずにいました。そこで、令和5年9月に川上地区の具体的かつ実現的なまちづくりにつなげるため、多くの住民の意見・要望をアンケートにより集約した第2次として「川上地区むらづくり計画書」を策定し、全戸に配布しました。

本計画は、これまでの川上地区むらづくり計画を更に推進するため、住民が集まり、ワークショップ形式で意見交換し、実際にまちづくりが始動することを計画しています。

(3) 検討体制

検討体制は、川上地区自治振興会が主体となり、京丹後市久美浜市民局、地域コミュニティ推進課などの支援を受け、川上地区自治振興会のチラシを全戸配布して募集した住民の参加者により、検討を行いました。なお、ワークショップの運営支援に坂上英彦氏（嵯峨美術大学名誉教授）にファシリテーターをお願いしました。

（参考資料）全戸配布のワークショップチラシ(第1回から第3回まで)

(4) ワークショップ検討経過

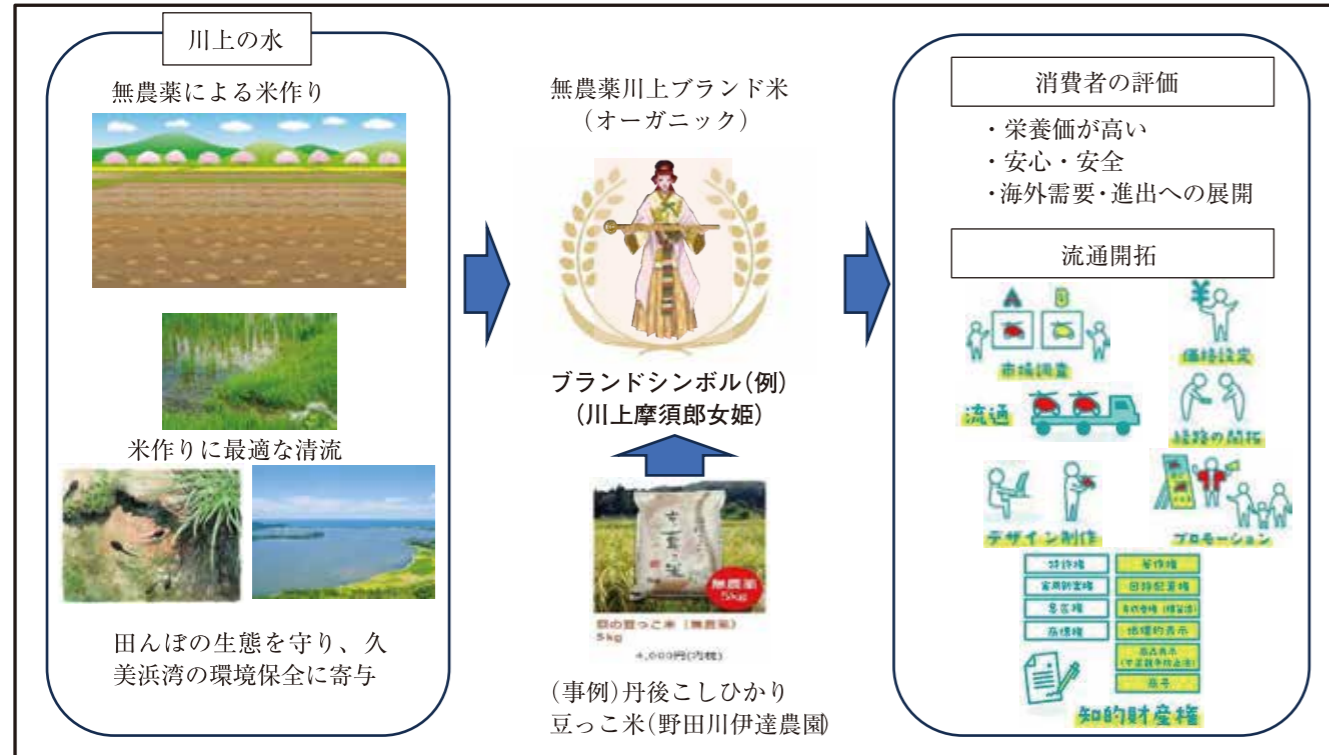
ワークショップは、「川上の未来を語る夕べ「まちづくり作戦会議」」と題して、住民が集まりやすい土曜日19時より21時に次の3回を行った。

回・日時	内容	備考
第1回 2023年11月11日	テーマ「アイデアを出す」 ① 自己紹介、参加の抱負・希望等 ② 5つのテーマでアイデアを出し合う ③ 次回の作戦案のテーマをつくる	参加者数 31人
第2回 2023年12月9日	テーマ「作戦をつくる」 ① 具体的な(5W1Hで)作戦を立てる ② 次回の課題を考える	参加者数 21人
第3回 2024年1月27日	テーマ「作戦を実現するために」 ① 事例、方法などを学ぶ ② 今後の継続的な活動予定を立てる	参加者数 20人

② 無農薬川上米づくりによるブランド展開

川上の谷に流れる清らかで栄養を含んだ水と自然地形を生かして、自然栽培、自然農法による米づくりを行います。無農薬の米は、本来の栄養価も高く、農薬による人体への影響がなく、久美浜湾の環境保全につながります。何よりも消費者が今後より安全、安心な食糧を求めることは必至です。このため、川上の土地の力を活かして、地区全体が協力して、高収益で若い農業者の参加につながる世界をターゲットにした輸出可能な無農薬のブランド米作りに挑戦します。

無農薬川上米づくりによるブランド展開イメージ(案)



【課題】

- ① 地区内外の先進無農薬農業者との交流
- ② 無農薬農業の拡大実施
- ③ ブランド化の手続きと海外進出
- ④ オーガニック生産者の認定(事例 伊達農園 兵庫県有機農業研究会認定番号取得=農薬不要で、化学肥料を使用せず、育てた安心安全の農作物です。)
- ⑤ 先行事例研究による流通体制
- ⑥ 地域版ふるさと納税、農業振興等の事業手法

(2) テーマ『若い世代が住みたいまち』

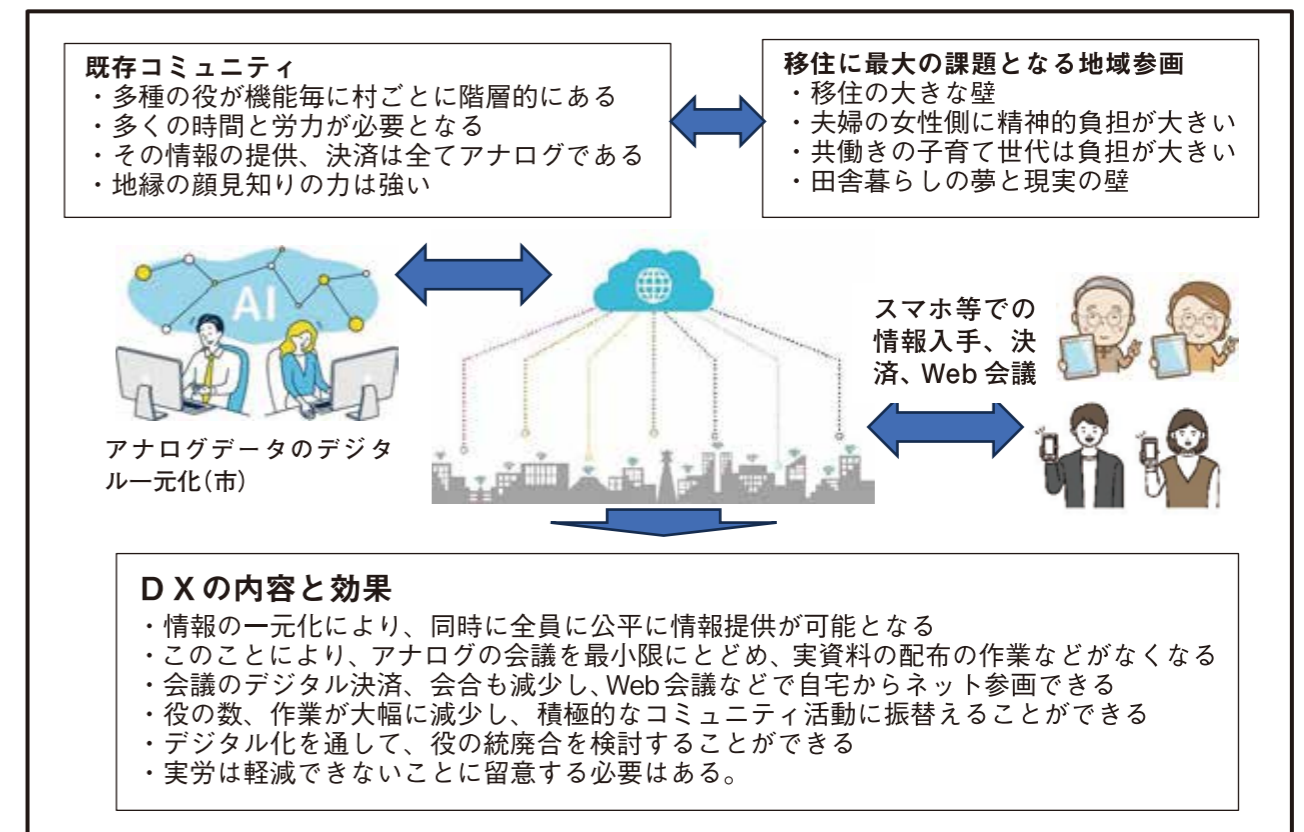
地域コミュニティの既存の体質をデジタル化によって改善し、新住民・ふるさとに帰る住民も快適に暮らせる住みたい川上のまちづくりに取り組みます。

【背景】 若い世代の移住、ふるさとに帰る住民が負の負担となるのは、地域コミュニティへの参画の重たさで、多くの役の種類、頻繁な会合等への出席などが幾重にも日常生活にも影響してくることで、これを抜本的に改善するためにスマホやタブレット端末等を利用し、地域の情報のデジタルによる一元化を図り、役の負担を軽減し、廃止の検討を含め若い世代が住みたくなるまちが望まれています。

① コミュニティデジタル化事業

地域の役、会合の数を減少、軽減、場合によって統廃合する仕組みをデジタル化によって構築します。住民全員が同時にすべての情報にアクセスできる集約を行います。このシステムは、日常の移動手段の確保、安否確認、買い物需要などへの展開も可能になります。

コミュニティデジタル化事業イメージ(案)

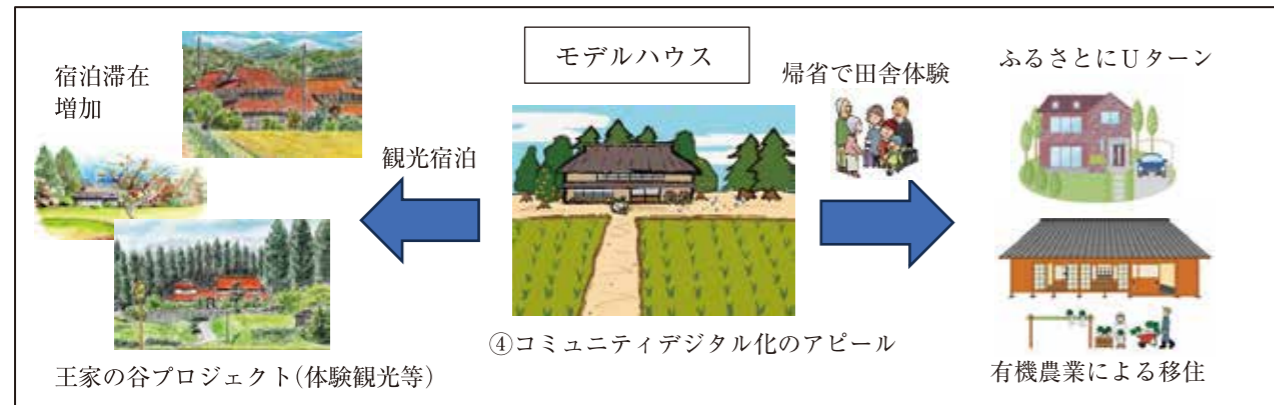


【課題】

- ① デジタル化の作業負担、システム開発の費用、負担などを検討する必要がある。
- ② 各戸一台のスマートフォン、パット等が必要となる
- ③ 高齢者の場合は、不慣れなため事前に操作等の学習を必要がある。
- ④ これまで既存コミュニティ活動に慣れてきた人たちに理解と協力が必要である。

② 空き家活用(宿泊・移住)事業

川上地区には空き家が多くあり、これを利用して、観光目的の宿泊施設、移住者のお試し住居としてモデル的に整備する。需要を増やし、他の空き家への展開を図る。



【課題】

- ① 空き家実態調査(件数、賃貸・売却等の意向)、空き家バンクの登録
- ② 事業手法の検討(自治振興会等の事業主体、補助金の活用、運営主体、観光連携、優秀なデザイナーが必須)

注)モデルハウスは、事業主体の誘致に向けた空き家 機屋のコンクリート床の有効活用を含む)の選定、条件整理から始めます。

事例 奈良県山添村

(考え方)自然を敬い、自然とともに生きる人たちが暮らすこの土地に、身体も心も”自然に”整うサウナ付ホテルを作ります。私たちが目指しているのは、「整う、のその先」。サウナ本来の役割をみつめ、ここでしか出来ない大自然サウナから生まれる、少しの心の余白とコミュニティづくりを目指したPJです。
(事業内容)クラウドファンディング 2カ月で414人、6,523,000円を募集終了。一泊2食2.3~3.0万円/人。予約で満員状態が続く。食事は近隣農家と連携した地産地消。
ポイント:何も無い贅沢とサウナ、部屋は50㎡と100㎡の2タイプで広々とし、デザイン性が高い。



(3) テーマ『魅せるまち』

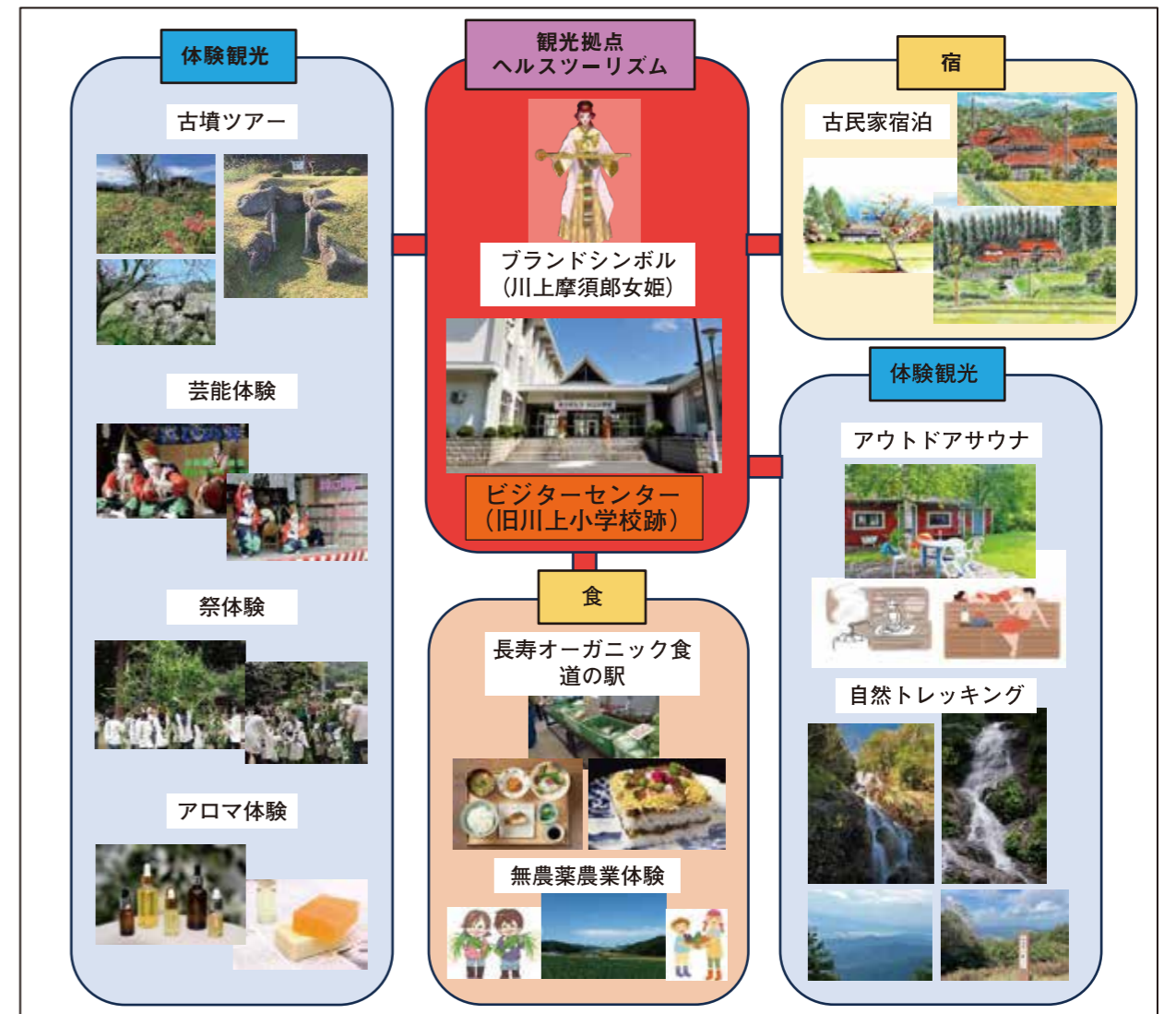
古代から続く豊穡の地、清流の水と稲作を背景に王族が繁栄した川上の魅力を発信し、民家の宿泊、サウナなどの体験観光、体に優しい食などで観光誘客に取組みます。

【背景】川上の豊富な観光資源を活用した地域発展の可能性が追求されていない。

① 王家の谷プロジェクト

川上の観光資源は、ひとつの谷に古代から続く歴史、自然、芸能、文化がまとまった人を癒す贅沢を提供できます。谷の自然とそこから生まれる水を基本に、自然・歴史・芸能・農業などの体験観光、オーガニックの長寿食、古民家での静かな宿泊などを地域の人々が歓迎する観光に取組み、京丹後市のヘルスツーリズムの拠点をつくります。初期は、マップ制作、ガイドの地域学習・育成から始めます。

王家の谷プロジェクト



【課題】

- ① 人材調査(ガイド、語り部、体験指導者、インフルエンサーなど)
- ② 観光体制の整備(関係者の理解と協力)
- ③ 旧川上小学校の利用、事業手法の検討
- ④ リーディング事業の整理(京都府立大学の湯船坂プロジェクトとの連携、インフルエンサーを活用したSNS発信、空き家の古民家再生+サウナ、アロマ事業、小学校での長寿食の提供から始める)

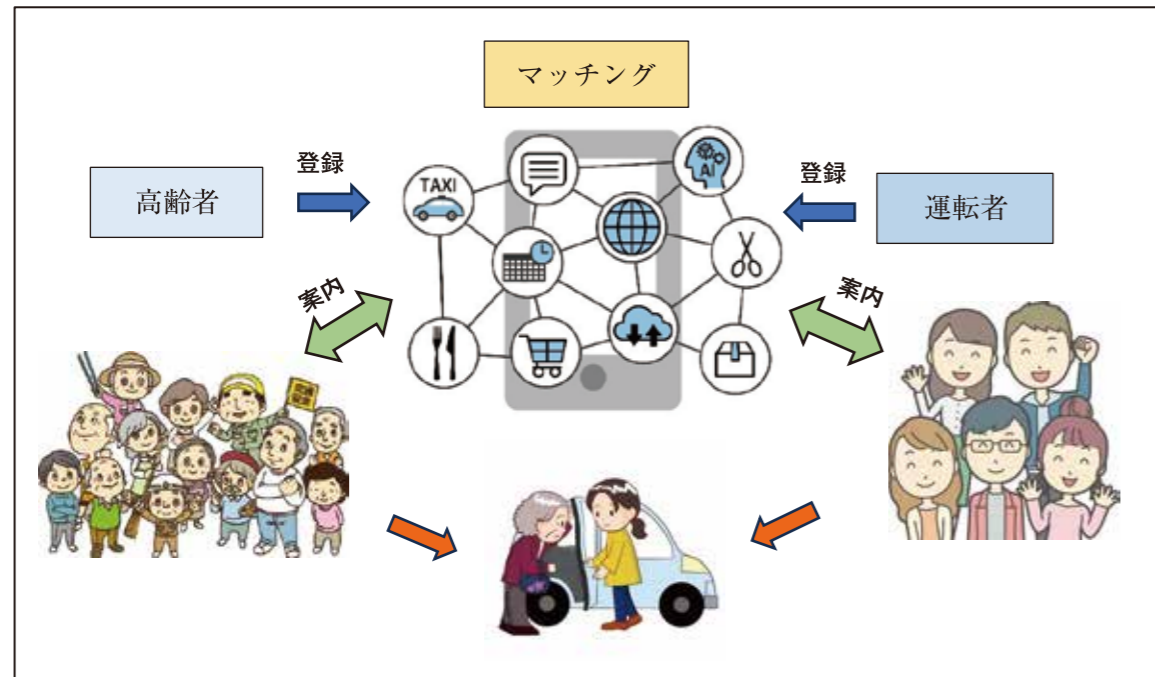
(4) テーマ『高齢者が活躍するまち』

いつまでも高齢者が元気に地域で活躍するための場や仕組みをつくります。

【背景】 運転免許を返納する高齢者が増加し、元気であっても移動が困難なため、出かける機会が減少し自宅での生活に制限される。元気に買い物、趣味、お出かけ、友達との交流を求める高齢者が多い。

① 高齢者のライド事業

構想レベルのアイデアとして、車を運転できない高齢者が元気に移動できるように地域で移動手段を助け合いで確保する仕組みを作ります。タクシーではなく、あくまでボランティアの範囲で助け合います。ボランティアの人材登録と利用者の登録を行い大画面の패드でのマッチングを行います。基本の操作は、コミュニティデジタル事業のハードとソフトを活用します。



【課題】

- ① コミュニティデジタル事業が確保できないと勧められない。
- ② ボランティアで運転する人材の確保の調査(インセンティブの検討)
- ③ タクシーではないので、法制度の問題はクリアできるか。
- ④ 事例研究が必要。

注) 現実的には京丹後市内の先進的な取組みを実施している丹後町のデマンドバス等を参考に行政等と相談し、検討する必要があります。

(5) テーマ『みんなが集まる旧川上小学校』

川上地区の活性化の拠点として、廃校となった小学校を再整備、蘇らせる事業に取り組みます。

【背景】 旧川上小学校が廃校となり、地域の心のよりどころがなくなり、再利用による活性化拠点になることが望まれている。

① 多世代交流サロン(カフェ、飲食、教室、ラウンジ)

川上地区のお年寄りから子供の多世代が利用できる交流サロンを作ります。

対象	利用内容	場所
お年寄り	飲食 学習 働く スポーツ 買い物	喫茶、食堂 教室 子どもの預かり・見守り、学習支援、アロマ製造 グランドゴルフ等 産直販売所、お土産
子ども	遊ぶ 学習 飲食	校庭、自由室 自習室、図書読書 食堂
子育て世代	働く 子どもの預け 学習 イベント	アロマ製造、喫茶・食堂 送迎駐車場 生涯学習、料理等 フリーマーケット等
全世代	休憩、散策	ラウンジ、校庭

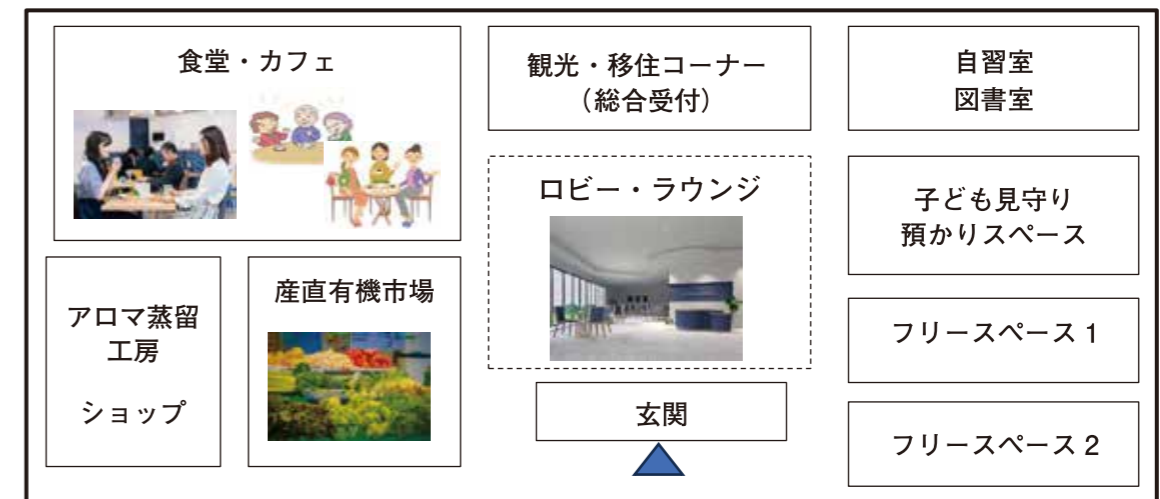
② アロマ蒸留工房(①の再掲)

小学校の理科室等を利用してアロマの蒸留工房を整備する。材料置き場、販売スペースも確保する。

③ 観光・移住ビジターセンター

観光の拠点として、情報のワンストップセンターとして、観光案内、相談、紹介等を行います。観光と併せ、移住の相談、紹介等も行います。

旧川上小学校利用イメージ



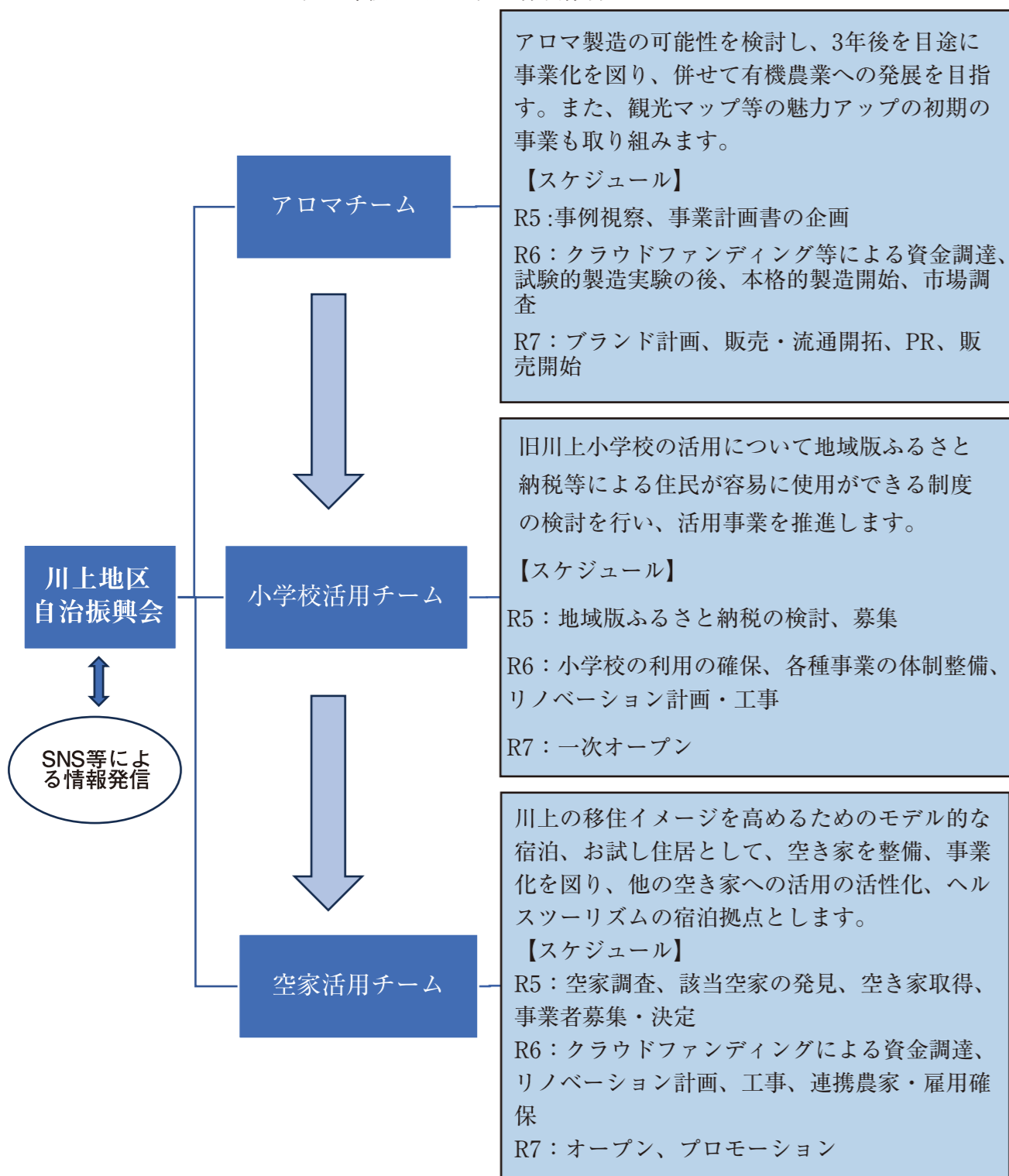
【課題】

- ① 旧川上小学校自由使用等の地域版ふるさと納税の活用の可能性
- ② 食堂・カフェの運営、産直市場の体制、高齢者の子供見守り等の活躍の可能性
- ③ 廃校の活用事例(飲食、体験など)の研究

4. 推進体制 第(1次)

以上のテーマ別の取組を今後も継続していくには、川上地区自治振興会がまとめ役となり、各テーマを絞り込んで推進するチームと事業スケジュール案を検討する必要があります。まずは、アロマチームから先行して取り組みます。同時に進行に伴う SNS 等による情報発信により、子育て世代の女性等の多様な住民参加を促進します。

図 今後の川上地区の作戦体制のイメージ



川上地区自治振興会 令和5年10月10日

川上の未来を語るタベ

「まちづくり作戦会議」

今年5月にできた「川上地区おらづくり計画書」を実現するために、皆様から広く意見を頂き、具体的な取り組み、方向を語るタベを開催します。
私達ができるまちづくりの作戦をつくりたいと願っています。

第1回 11月11日(土)
午後 7:00~9:00
場所: 林業センター
第2回 12月9日(土)

好きなテーマを選んで、グループで語り合ってください。



川上小学校の活用

- ・子育て支援
- ・子供の遊び場・居場所
- ・高齢者のサロン
- ・地域フリマ、古着交換会




魅力アップ

- ・古墳活用など観光振興
- ・魅力ベスト 10
- ・文化・歴史の活用
- ・自然のアピール



高齢者福祉

- ・地産地消の食事
- ・買い物支援
- ・交通手段確保
- ・憩いの場、活躍の場

第2回のテーマ案

- ・ふるさと納税の活用
- ・川上ブランドづくり
- ・空家の活用
- ・観光への取組

農業活性化

- ・こだわり野菜等のブランド化
- ・米、イチゴ等の果物、加工品
- ・川上ふれあい朝市の活性化
- ・営農組織の構築、有害鳥獣対策

移住・人口確保

- ・婚活
- ・空家対策
- ・移住促進、農業・農村体験
- ・地区の役活動の取捨選択

多数のご来場をお待ちしています!!

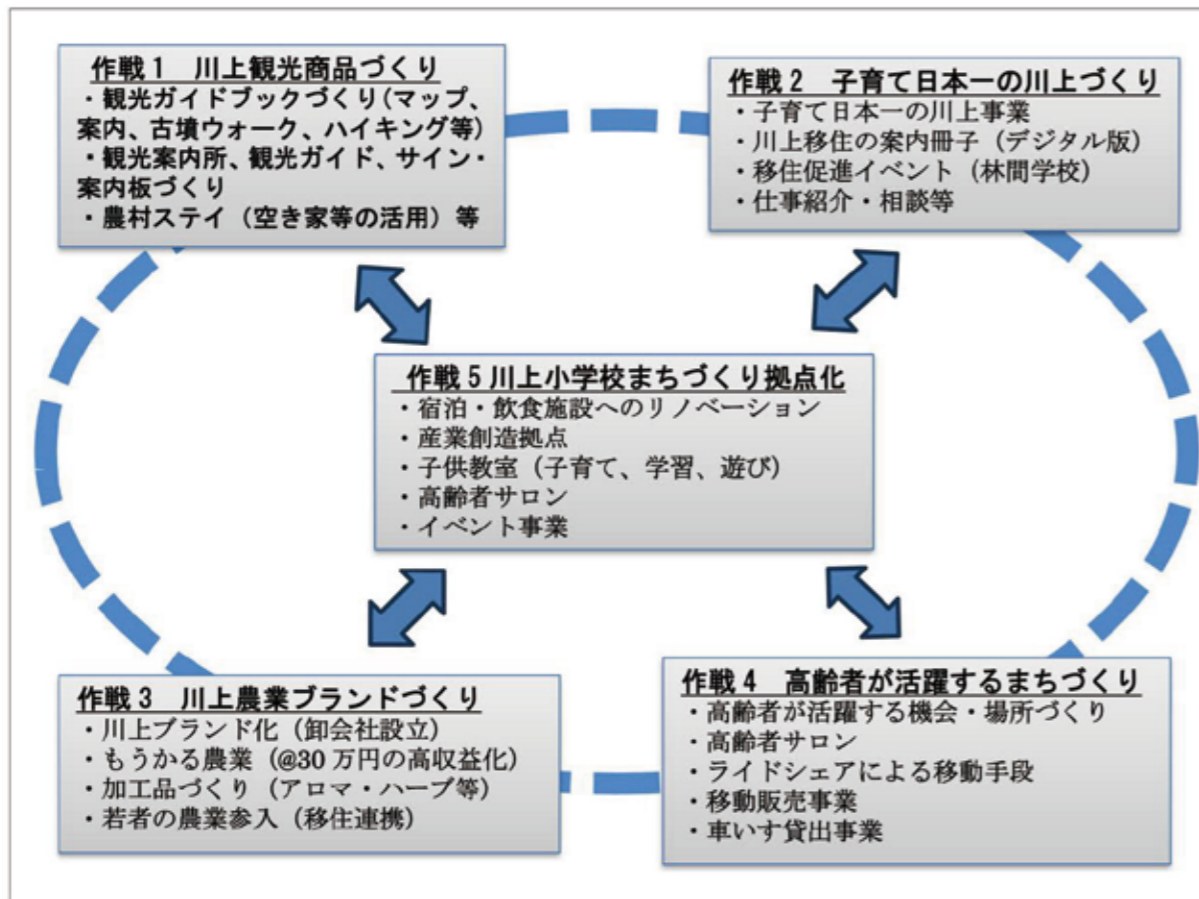
川上の未来を語るタベ

第2回「まちづくり作戦会議」

「川上地区むらづくり計画書」を実現するために、第二回作戦会議を開催いたします。
 前回より具体的な内容を語り、「まちづくり作戦」を立てます！
 女性、若者の参加をお願いします。

第2回
12月9日(土)
 午後 7:00 ~ 9:00
 場所：林業センター

課題の解決策を話し合い、5つの作戦をまとめます！



★3回目もありますので、多数のご来場をお待ちしています!!

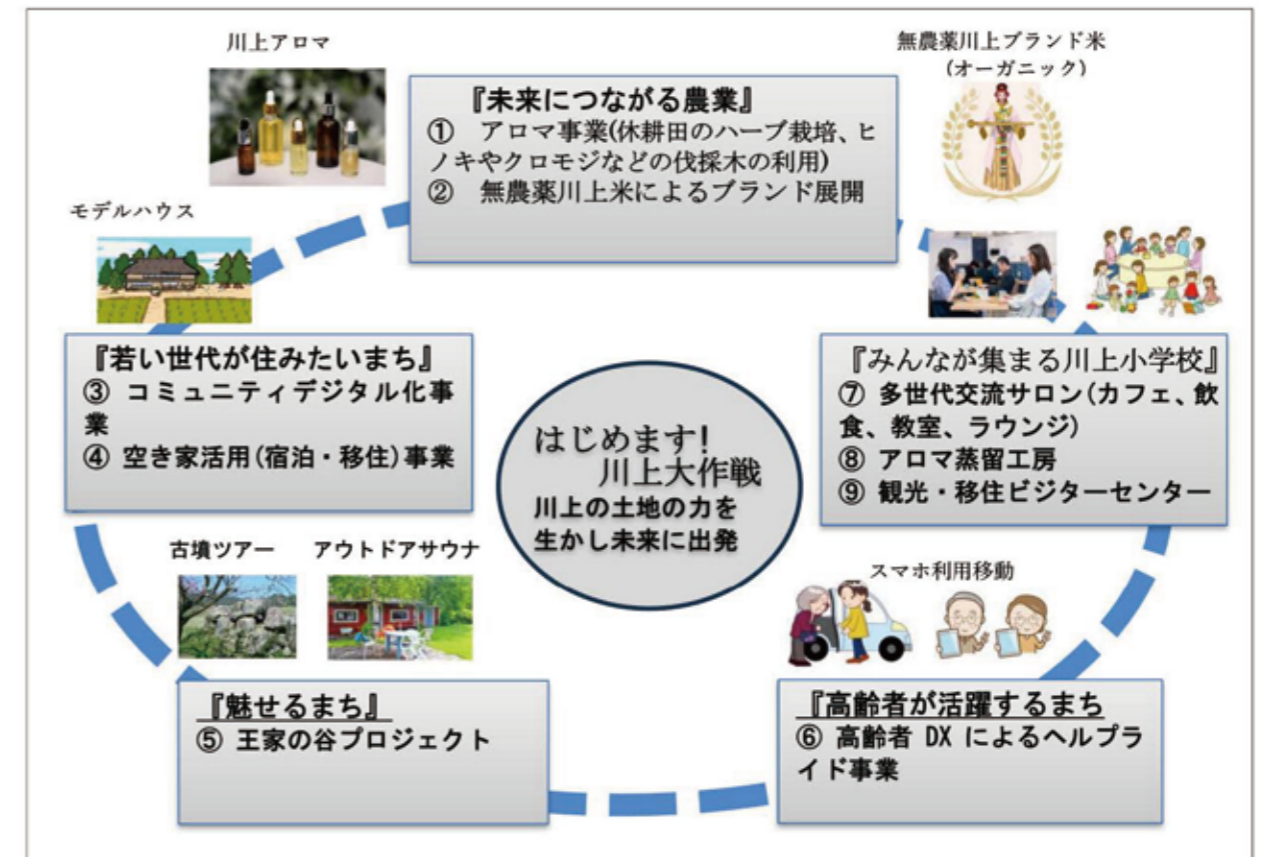
川上の未来を語るタベ

第3回「まちづくり作戦会議」

「川上地区むらづくり計画書」を実現するために、第3回作戦会議を開催します。
 今回は、「まちづくり作戦」をまとめます。そして、今後の実行に移る予定を話し合いましょう！
 作戦に協力希望の方は、是非参加を!!

第3回
1月27日(土)
 午後 7:00 ~ 9:00
 場所：林業センター

【まとめ提案】5つのテーマ、9事業から取り組みます!!



★最後ですので、多数のご来場をお待ちしています!!

参考資料 アロマ工房「杉乃精」視察結果

1. 視察概要

- ① 視察日時 令和6年2月14日(水)10時30分～15時
- ② 視察先 ①アロマ工房「杉乃精」(京都府京都市右京区京北熊田町新田50)
- ③ 美山かやぶきの里(京都府南丹市美山町北)
- ④ 目的 川上地区むらづくり計画書に基づき、計画を実践に移していくため住民の意見を聞くワークショップを開催したところ、「未来につながる農林業」をテーマに、休耕田と川上地区で栽培したハーブなどを活用したアロマ精製事業が案にあがった。川上地区における事業化に向け、アロマ事業をおこなっている先進事業者を視察するもの。また、川上地区が持つ歴史・文化・景観を次代にも残していくため、地域の歴史・文化・景観の保全に取り組む美山かやぶきの里を見学するもの。
- ⑤ 参加者 白岩美芳、上田茂生、山添善明、山添崇子、瀬戸郁郎、藤本紀子

2. 視察結果

- ①アロマ工房「杉乃精」 現場見学・意見交換(10時30分～13時)



●クロモジをチップにしている様子

【気づき・学び】

川上ではモチバナキをチップにすることで蒸留しやすく工夫ができる。



●チップ化したクロモジ等を蒸留している様子

【気づき・学び】

蒸留で香りを抽出する際、木の種類によって別々の筒で蒸留し、香りが混ざらないようにしている。



●委託の様子

【気づき・学び】

この日は、岐阜から委託をされた夫妻が見学におとずれていました。施設の設置が出来るまでは委託も可能であることが分かりました。



●山に自生しているクロモジの見学

【気づき・学び】

大きなクロモジ(原材料として活用できる程度)に成長するまでに約15年かかる。



●昼食・ピザづくり体験

【気づき・学び】

地域で採れる野菜を活用して、見学者にピザを実際に作ってもらう体験を実施している。そのピザを自作のピザ窯で焼き、参加者の昼食になる。他にも地域の特産(納豆モチ、焼きおにぎりなど)も提供している。川上地区でも農産物を活用した体験型の事業の可能性を感じた。



●意見交換

- ・取り組みやすい材料から取り組むとよい
⇒ 檜、ミントなど。檜は抽出量が多く、ミントはすぐに成長するので栽培がしやすい。
- ・できることから始めること。最初から大きなことを目指さないこと。

- ②美山かやぶきの里 見学(14時～15時)



●美山かやぶきの里

【気づき・学び】

地域の文化や歴史、景観、遺産を活かして、地域の活性化を成功させている。観光客も国内のみならず、台湾などからの観光客も多くみられた。川上地区として、豊かな自然の保全が参考になった。

3. まとめ

川上地区においてもアロマの製造は可能と判断でき、小学校での地元食材を活用した食事提供を含めて地域を活性化できる内容であることを確認した。

